

公共交通と交通政策に関する 調査特別委員会

調査結果報告書



平成 25 年 3 月

那 覇 市 議 会

目 次

	頁
はじめに	1
第1 「本委員会」設置の経緯と目的	2
第2 簡易現状	3
第3 「調査・研究」活動の流れ	4
第4 調査活動経過	5
第5 調査活動からの現状等報告	8
第6 市民地域フォーラム及び障がい者フォーラムの報告	27
第7 先進地の調査視察報告	41
第8 調査総括	
1 本市の取り組みへの評価	74
2 本市などの課題及び提言	76
むすびに	91
参考 1 委員名簿	92
2 新聞切り抜き	93

はじめに

那覇市は 2010 年 3 月、第 4 次総合計画のなかに“誰もが移動しやすいまち”を基本目標に交通基本計画が策定され、那覇市のまちづくりを交通の面から支える計画を施策展開しています。

しかしながら、那覇市においては、混雑時旅行速度が全国ワーストワンであることには変わりありません。この速度は、すなわち経済速度であるとしてなんとか混雑時渋滞の解消のためにその原因、経過を調査研究、市や県などの取り組みの検証もしたいと特別委員会の設置となりました。

3 年にわたり、各関係団体からのヒヤリング、「市民地域フォーラム」開催による市民ニーズの把握、先進地視察など 40 回の委員会を重ね、市長などへの提言としてまとめました。

“中核市”に生まれ変わる今こそ、快適な交通環境を整備することが、さらなる市民サービスの向上へ寄与するものと確信します。

当局等におかれては、この提言を真摯に受け止め、早期解決が可能なものについては早急な対応方を望みます。行政と住民が協働し喫緊の課題である渋滞をはじめとする諸問題を解決するため、公共交通の改革や新たな交通施策を大胆にスピーディーに取り組むことを期待して本委員会の報告といたします。

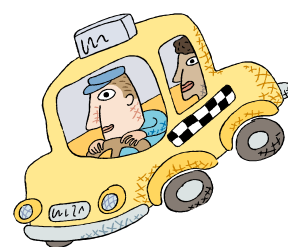
第1 「本委員会」設置の経緯と目的

本県の中南部都市圏の自動車の平均世帯保有台数は1980年の1世帯当り約1.17台から2005年には、1世帯当り約1.73台と大きく増加し、全国の中でも極めて高い自動車依存型社会が形成されている。

本市内における殆どの主要交差点は慢性的な混雑・渋滞を引き起こし、市民生活や経済活動に大きな妨げとなっている。

そのため、自家用車から公共交通機関への利用転換や渋滞を解消し円滑化を促す抜本的な交通施策を講じる必要性が早くから叫ばれてきた。

このような状況の下で、車に頼らない社会、そして、超高齢化社会に応える「誰もが移動しやすいまちづくり」の実現に向け、本市の公共交通と交通政策に関する調査・研究を行うことを目的に2010年4月に当該特別委員会を設置した。

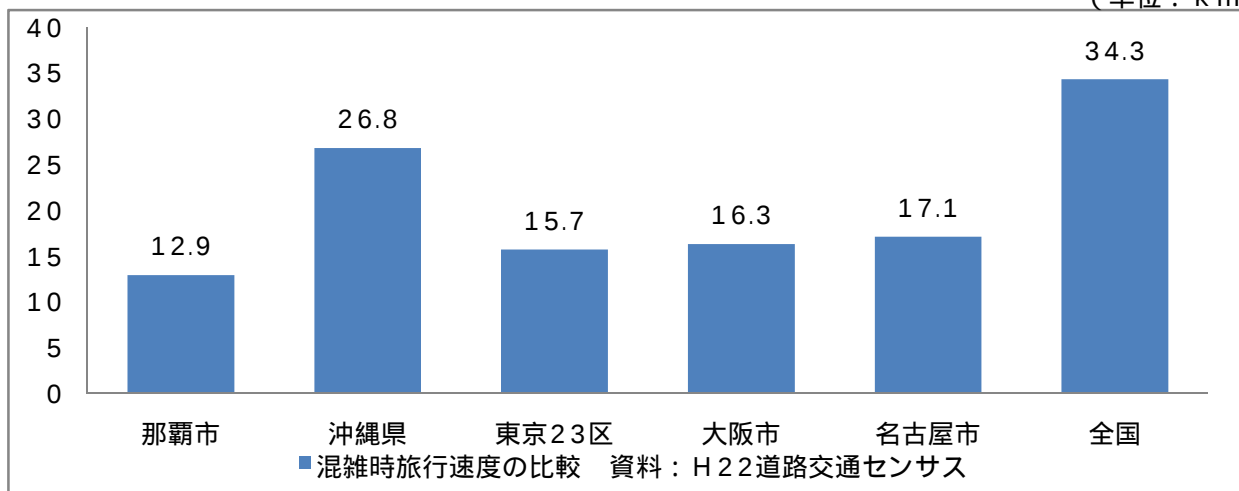


第2 簡易現状

混雑時旅行速度について

えっ！あの3大都市よりも那覇市の混雑はこんなにひどいの？

(単位：km/時)

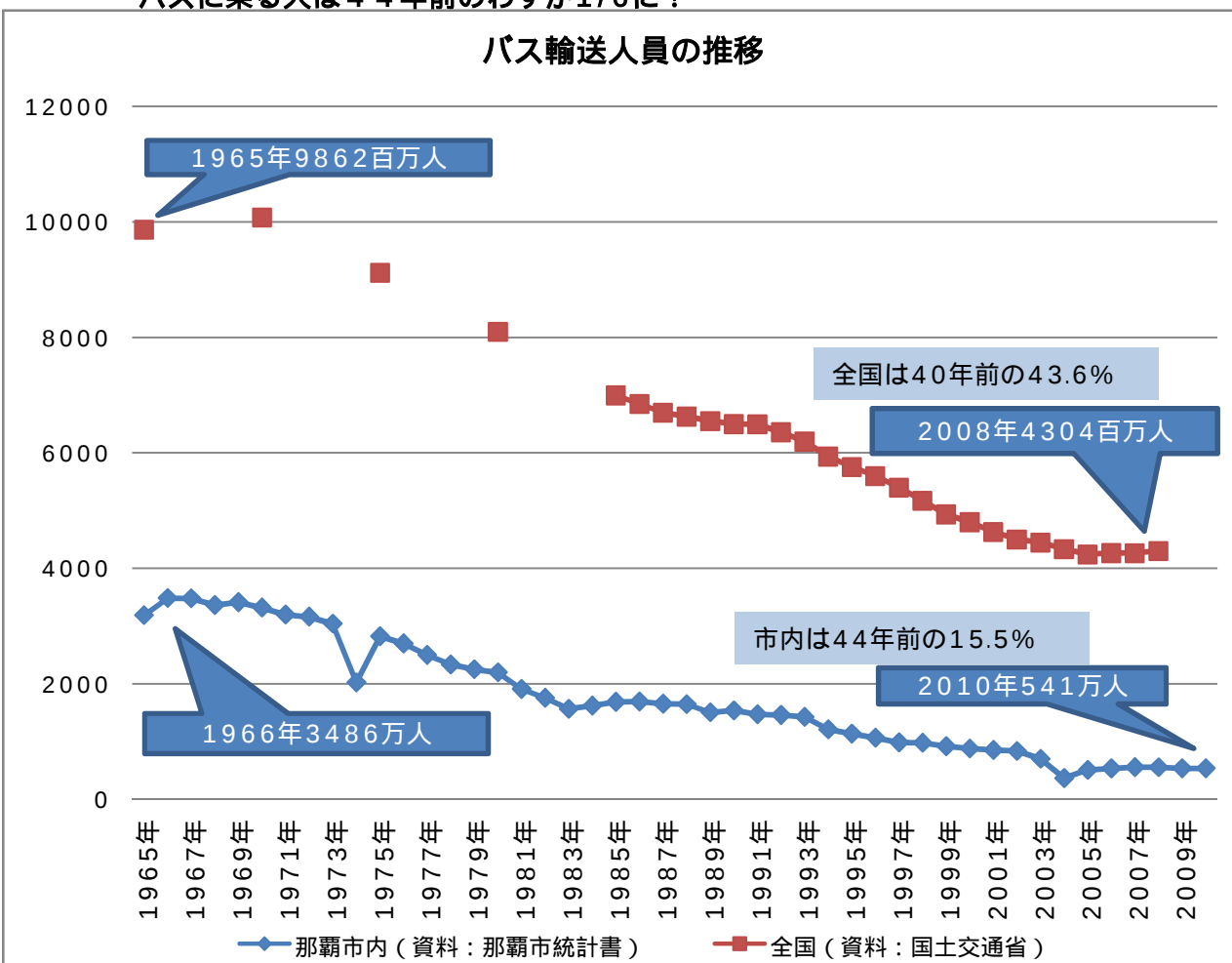


混雑時旅行速度とは

平日の午前7時～午前9時、又は午後5時～午後7時のうち混雑する時間帯の混雑方向の旅行速度を示します。なお、混雑時とは最も旅行速度が低くなる時間帯、渋滞等が発生している区間については渋滞が最も長くなる時間帯、渋滞等がない区間は時間交通量が最も大きくなる時間帯を示します。

バス輸送人員の推移について

バスに乗る人は44年前のわずか1/6に！



第3 「調査・研究」活動の流れ

1 ステージ 活動概要

本委員会における調査「事項・方法」及びスケジュールの決定



2 ステージ 本市の現状

本市の交通関連の現状と交通基本計画の把握



3 ステージ 交通関連団体の現状把握

バス協会をはじめ、各種団体及び沖縄県からのヒアリング（意見交換会）調査を実施して、課題なども併せて把握する



4 ステージ 市民ニーズの把握

市民が公共交通や交通政策にどのような考えや要望などがあるかを、地域に出向いてフォーラムなどを開催することによって、市民ニーズを的確に把握する



5 ステージ 先進事例の調査

公共交通施策などの成功事例を調査・研究し、今後の委員会活動に反映させる



6 ステージ 市民への報告

4、5 及び 6 ステージの総仕上げとして「市民報告会」を開催して、これまでの市民からの意見や要望に応える



7 ステージ まとめ

各種団体とのヒアリング、市民ニーズの把握、先進事例の調査などを踏まえ、整理を行い、課題と提言の形でまとめあげる



8 ステージ 本会議への報告

平成 25 年 2 月定例会本会議にて、約 3 年間の調査・研究の報告を行う



9 ステージ 提言

那覇市長などへの提言